

平成 28 年度第 1 回

東御市地球温暖化対策地域推進協議会議事要旨

H28.8.31(水)13:30～15:30

勤労者会館 2階大会議室

【出席者】

(委員：敬称略)

高橋 大輔、宮原 則子、桜井 典夫、金井 芳彦、宮崎 徹哉、小野 賢一、森 まり子、郷原 辰実、新田 詔三、中澤 亥三、森 勝

[欠席：中沢 豊彦、内津 喜明、佐藤 千枝]

(事務局)

土屋市民生活部長、塚田生活環境課長、柳澤課長補佐兼環境対策係長、田原環境対策係主任

【配布資料】

- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会会議次第
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会委員名簿
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会設置要綱
- ・資料（A3カラー）

東御市地球温暖化対策地域推進計画 推進施策総括表（中期実行計画）

- ・東御市太陽光発電設備 まとめ（野立て、住宅、事業所、公共施設）
- ・東御市全体の電気使用量、売電量の推移
- ・「IPCC レポートコミュニケータープロジェクトの紹介」

【議 事】

<委嘱式>

1. 開 会

2. 新委員の委嘱

3. あいさつ

4. 閉 会

<会 議>

1. 開 会

2. 自己紹介

3. 正副会長の選出
会長：高橋 大輔委員 副会長：宮原 則子委員

4. 会議事項
 - (1) 東御市地球温暖化対策地域推進計画の概要について
確認

 - (2) 東御市地球温暖化対策地域推進計画（中期）H27 年度実績について
確認

 - (3) 意見交換

5. その他

6. 閉 会

【会議内容】

4. 会議事項

(1) 東御市地球温暖化対策地域推進計画の概要について

事務局田原

東御市地球温暖化対策地域推進計画（計画冊子）及び協議会設置要綱に基づき説明

土屋部長

自然エネルギーの関係で、計画を策定した当時は、メガソーラーがとても画期的という話で話題になり、東御市としても推進しようという話の一部ありましたが、ご承知のとおり、それ以上に住宅の太陽光発電を東御市では進展させていますし、景観の問題もありますので、市として当時あったようなメガソーラーを積極的に進めていくという考えは現在ありませんので、訂正させていただきます。

(2) 東御市地球温暖化対策地域推進計画（中期）H27 年度実績について

【24 番「高断熱住宅・省エネ建築物の普及促進」について】

新田委員

省エネ改修減税は、どういったものが対象となりますか。

事務局田原

住宅省エネ改修に伴う固定資産税の減額ですが、対象となるのは、窓、床、天井、壁の断熱性を高める工事で、工事費が 50 万円を超えるもの、一戸あたり 120 平方メートル相当分が固定資産税額の 3 分の 1 が、工事の完了した翌年度分に限り減額されます。

宮原副会長

広報などにも減税の対象となる住宅の事例が載っています。ちょっと PR が足りていないかもしれませんが。

事務局塚田課長

固定資産税は地方税ですので、地方税法や施行例、施行規則等にとった形で減税が行われているということです。また、制度等につきましてはホームページでも説明をしていますが、そのほかには、県等のホームページを見ていただけると出ているかと思います。基準については、今概要を申し上げたとおりになっておりますのでよろしく願いいたします。また、副会長からお話があったように PR できていないということについては検証させていただき、できていないようであれば、関係課とも調整して PR をさせていただきた

いと思います。

新田委員

国の目標は炭酸ガスの削減を、2013年を基準に2030年に26%で、家庭部門では、同じ期間に40%削減する方針になっています。そうすると日本の場合、住宅に力を入れないとだめだということで、省エネ法が今年の4月から一部改訂されて、国としては建築にもすごく力をいれないといけない。日本の建築は、窓が、国際基準が国際的には、U値が1.25とか数値がすごく低いが、日本の場合は平均4くらいあります。なぜそうってしまったかということ、日本は全然そういう基準を設けなかった。そういう時代と違って今は住宅に目を向けなきゃいけない。住宅の中でも新築は少ないので、リフォームにすごく力を入れれないといけないということですね。国も動き始めています。国が動いてから市のほうも動くことになると思いますが、市としてもそういう面に力を入れるように活動していただきたいと思います。

塚田課長

貴重なご意見ありがとうございました。私どももパリ協定の後、国のエネルギー施策の方針がなかなか出ない中で、苦慮しているところですが、今のようなご意見は非常に貴重でございますので、よく確認をさせていただきますして、施策に反映をさせていただきたいと思えます。

【52番「里山・森林の保全と活用」について】

最近インターネットで読んだのだが、雑草やかん木はメタン発酵するが燃やさずに普通に乾燥させると炭素を固定する効果がある。使っていない畑がたくさんあるので、そういうところで雑草を乾燥させるというようなことをやれば里山・森林の活用の数字になる気がします。ただそれを市役所でと言っても人がいないでしょうから、例えば小学校で校庭の草をとって3日くらい乾燥させて計ってということをやってはどうか。

それと実績を見ていて、すごくいいものと全然だめなものがあって、私はずっと民間の会社で働いていたのですが、民間の会社は利益にならないとなかなかやらない。民間企業にこのようにやってくださいと言うのもいいですが、これをやるとこういうメリットがあるという、一番いいのは補助金だすとか、そういうことを考えたほうがいいのかと思えます。

塚田課長

今のお話については、把握する手段を考えないといけないと思うのですが、今、農林省から出ている交付金を利用した、中山間地の交付金があり、集落単位で草刈をやっておりますので、そのへんの面積等の把握ができるのか担当課ともつめてみたいと思えます。こ

ちらの数値に入れられるかどうか也十分検討させていただきたいので宿題ということにさせていただきますと思います。

中澤委員

今の話で、例えば小学生に環境教育としておこなうとか、いままで着目しなかった誰でもできる炭素貢献というような視点で普及を検討したらどうでしょうか。

塚田課長

検討して必要に応じて普及していくという方向で考えたいかと思います。補助金の件ですが、市のほうにも国や県の再生エネルギーのいろんな補助制度の冊子等も配られていますが、どうしても市町村だと財源が限られてくるため、独自の補助制度を作っていくことが非常に困難になっています。ですが、市としてやらなければいけないこととして、太陽光の補助など国でやめてもやっているものもあります。十分今の実態を把握した上で、必要なものについてはできるだけ考えていきたいと考えております。ただ、財政については、かなり厳しいおりで、そういう状況も加味する中で、補助制度も考えていかないといけないと思います。ただ、国の制度を把握することは必要ですので、出ている冊子等で十分把握していきたいと思います。

宮原副会長

雑草を乾かしてから炭素換算するのですか。生のままではだめなのでしょう。

中澤委員

そういうのは決めて、例えば一律（水分量）70%とか80%でやると言えばいいと思います。

インターネットで調べれば出てきます。

宮原副会長

地域でやっている河川清掃なんかでもかなり雑草が集まるので、ああいうのは計りやすいのではないかと聞いていて思いました。

高橋会長

単純に炭素の量として考えるだけでなく、子供たちでもこういう意味で大切だということを学んでもらう場にもなるのではないかと思います。

【進捗率 0%の施策について】

宮原副会長

実績が 0 になっているものについて、これから市として取り組みを強化するとか、具体的にお考えがありましたらお示しいただきたいです。

柳澤補佐

すべてではないですが、実績 0 の部分についてはなかなか市で対応することが難しいです。民間の活力でがんばってもらう部分が多いので、消極的な考えではありますが、その分ほかの 100%以上達成できるものについては推進し、0%となっているものについては、普及啓発程度のことになってしまうというのが率直なところです。

土屋部長

PDCA のサイクルからすると、中澤さんからご提案いただいたように、こういうのはこうやるといいよ、ということもこの会でお出しいただいて、事務局も含めて進めていくというのがいいのではないかと思います。スタッフもお金も限られた行政ですので皆さんのお知恵をいただければと思います。

【57 番「グリーンコンシューマー活動及びグリーン購入の普及促進」】

森まり子委員

実績に、グリーン購入率が書いてあるが、これに基づいて、今日の地球温暖化対策地域推進計画の 67 ページを見ますと、グリーンコンシューマー活動およびグリーン購入の普及促進とあります。実績に出ている購入率 93.75%というのは市役所の総務課のグリーン購入の品目別の数字なのか、計画書にある、市民がグリーン購入に対してどのように関心を持って日頃から心がけていのかという数値なのか、その辺のところを説明していただきたいです。また、市民・事業者が日々どのように心がけているのかという実績や実態を把握しているのかどうか。もし把握していたら、それを教えて欲しいです。もし把握していなければ啓発もしていかないといけないので、その辺のところをよろしく願います。

事務局田原

実績に書かせていただいている数値につきましては、市役所内の事務用品についての購入率になっております。市民のグリーン購入率については、実態を把握することが難しく、把握できておりません。

森まり子委員

市役所の備品の当然グリーン購入は当然の事だと思います。しかし、環境の事を考えているのであれば、私たちは、グリーンコンシューマーとして誇りを持った生活をしないといけないので、市民に対して、グリーン購入ということを啓発していく必要があると思います。市役所だけでがんばってもだめです。市民全体が環境に配慮した品物を取り入れる

ことをやっけていかなない限りだめだと思ふので、その辺のところを市の方で、今後どうしていくかということをお聞きしたいと思ふます。

塚田課長

市の内部の購入については、徹底をさせていただいてるところですが、市民の方に対しての呼びかけがまだ不十分だということは、今おっしゃられたとおりでございませう。今後とも関係される団体等のお力をお借りして、どういう方向で進めていくかというところから始めたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

ちょうど今森委員からお話ありまして、昨日から私ども生ごみリサイクルのシステム化ということで、堆肥化のための生ごみの分別収集地元説明会を始めさせていただきます。森委員にも説明者のひとりに入っけていただいておりますが、そういう中에서도呼びかけをしていくということができると思ふますので、森委員にもお力添えをいただいて、やっけていきたいと思っております。

高橋会長

この手の事で一番大事なのは、学校かなと思ふます。小学生に学習会でこういうものがあるということをお伝えることが大事だと思ふので、教育現場との連携もふまえ検討いただければと思ふます。

柳澤補佐

今、各小学校に環境市民会議の方々と一緒に環境教育を行っております。そういった中で、環境市民会議さんやごみ減量3R推進委員さんなどの皆様と一緒に小学生の環境に対する考え方を広めていきたいと思っております。

(3) 意見交換

・【IPCC リポートコミュニケータープロジェクトの紹介】

中澤委員

資料「IPCC リポートコミュニケータープロジェクトの紹介」に基づき発表

今回は、5分程度でしたが、環境省は丁寧に40分版と1時間半版を出していますので、興味のある方はそちらをご覧ください。

新田委員

県の地球温暖化防止活動推進員の方で触れる地球というのがあり、そのDVDがある。子どもだけでなく大人も感動します。地球は何で温暖化がいけないかという根本的なことをやっけてくれて、できれば今度の会議のときに持っけてきて短い時間で少し見られればと思ひます。子供の教育にもいいのではないかとと思ひます。

宮原副会長

触れる地球儀という立体的な温暖化の学習をするツールなのですが、長野県の地球温暖化防止推進センターで購入したものです。とても分かりやすい。

新田委員

これは DVD で見るものです。今世界中で子供の教育でやっていて、台風がどうやって起こるのかとか、こまかい地球の事を全部説明しています。地球温暖化とはどういうものかということも説明しているので、教育にはいいのではないかと思っている。できたら次の会議とき少しお見せしたいです。

高橋会長

東御市の計画の中で、温暖化を抑える低炭素社会の実現に向けて進められていますが、適応策の考え方というのも少し、挙げ始めたほうがいいのかもしいですね。

・自由意見交換

森まり子委員

今日の午前中、高校生と環境の授業をやってきたのですが、三井金属さんで体験作業をして、市民が出している新聞紙がいかにかきちんと出されているか、ビニール紐とって、新聞紙の中に入れたいものが入っていないかということを経験してきました。そのような活動を5、6年やっているのですが、先程ありました「触れる地球」ではないのですが、私は、高校生の授業の中で「不都合な真実」という DVD を毎年見せています。その中で、温暖化することによってどうなるかというのを映像で2時間見ていると、それを見た後、じゃあ自分たちの生活でどうしたらよいかということが、やはり映像の中であるのですが、その緩和策や適応策をそのなかで教えています。今日話を聞いて、そういうことをやってきてよかったなと思いました。今日一緒に授業をした担当の先生が長野市から来ているのですが、その先生から東御市はすごく分別がしっかりしていて、細かくてすごいですねと言われました。私たちは、今やっていることをどんどん自信を持って進めて行っていいな、というのを改めて感じました。今回の台風10号でも、ニュースの天気予報のあとに、備えるということで注意点をいくつかテレビを通して言っています。今日ここで話を聞いて、普段から天気予報の予報士がこうなったらこうしたらいい、とか、それから熱中症対策も数年前から伝えていることですので、IPCCという言葉は知らなくても、普段から違う形として、備えるということを経験しているということを感じました。

高橋会長

他の市町村と比較してみたりすると、より東御市がどれだけ取組んでいるかというのが、市民の皆さんに分かりやすくなるかもしれないですね。

桜井委員（信州うえだ農業協同組合）

例えばりんごが十何年前は、上田の山口が品質のいいものが採れていましたが、今は、もっと標高が高いところに移っています。やはり温暖化になっているということだと思います。また、松くい虫の被害が、前はあんなになかったが、塩田や武石にも増えており、生態系への影響を感じています。あとは、やはり農業をやっていると、適度な雨と気温が必要ですが、全然雨が降らなかつたり、逆に一気に雨が降つたり、農産物に被害が出るので、対策が必要と思います。

金井委員（日信工業株）

いろいろ PR していかないといけないなと感じています。普及活動の中でもいろいろあるというところで、社員、家庭、地域へ広げていければいいのかなと思います。実績のバイオガソリンの使用のところで、ENEOS での給油に限るとなっていますが、ENEOS しかバイオガソリンを供給していないということでしょうか。

事務局田原

実績では公用車が給油しているガソリンスタンドのうち、和にあります ENEOS で給油した場合はすべてバイオガソリンになるということで、そこで給油している公用車の台数を実績に入れていきます。

金井委員

他のガソリンスタンドは、バイオガソリンではないということですか。

事務局田原

他のガソリンスタンドでバイオガソリンを供給していないかどうかは、把握できていないですが、公用車の給油として契約してお願いしている中では、他のガソリンスタンドでは普通のガソリンを入れています。

宮崎委員（長野都市ガス株）

民生家庭部門ということ踏まえますと、幸い当社が取り扱っている都市ガスは環境へのダメージが少ない天然ガスが主体となりますので、こちらを普及していくことで役割を果たしていきたいと思います。さらに、計画にも載っておりましたが、給湯器や湯沸かし器などの高効率化の部分でさらに普及を進めていき、現状に満足することなく、できることから協力していきたいと思います。

小野委員（㈲三井金属）

先程、中沢委員からの草の話がありましたが、小学生が草を刈り取ってそれを測ってというのはなかなか難しいと思います。市で行っている区の一斉清掃で、相当な量の草が出てくるのですが、今はすべて粉碎してバイオマス燃料として出荷しています。実際に重さを量っていて、重さに対してクリーンセンターに請求を出しているのですが、重さはクリーンセンターで把握していると思うのでそういう連携をとっていただければと思います。

郷原委員（東信森林管理書）

森林管理所としても引き続き温暖化対策として、間伐の推進を積極的に実施していきたいと思っています。現在も管轄する東信地域での間伐は、年間約 1000ha で県の中でも森林の整備が進んでいる地域です。先程ご発言のあった松くい虫の話ですが、非常に当地域でも頭を悩ませている問題で、過去にはヘリコプターによる薬剤散布を行い、当時は今ほど被害はありませんでした。しかし、今は環境の時代で、なかなか薬剤の散布理解されない中でどのように食い止めるかが非常に課題なのですが、水際対策として、被害のあったところを討伐して抑えて拡散させないように処理をしている状況ですが、とても追いつくものではありません。そんな中で、考え方を変えて、樹種の転換をしようという考えがあります。これがすべての地域にあった対策かどうかは一概には言えませんが、一つの方法として、松ではなく違う樹種を導入していくという考えもあります。県や自治体を含めて協力して進めないといけないと思います。実態としてなかなか進みませんが、対策には努めているということをご理解いただきたいと思います。

もう 1 点森林全体の話では、当時カラマツが日本の中では有数の適地ということで、有用な材が生産される地域ですが、一般から見るとカラマツばかりで面白みがなく、針葉樹ではなく葉の落ちる広葉樹の導入が必要ではないかということが全国的に言われていて、5月に森林林業基本計画が見直しをされています。この中で多様な森林への誘導が盛り込まれており、今後は一斉林だけでなく、奥地については、広葉樹も導入していくということも今後の方針として示されています。